



令和4年1月



「新年の挨拶」

今年も無事に新年を迎えることができたこと、仏様・ご先祖様のおかげと感謝致します。また平素より寺門護持にご尽力を賜り、誠に有難く感謝申し上げます。

昨年コロナ禍が収まらず大変な年となりましたが、本年は皆様に取って実り多い年になりますよう祈念し、新年のご挨拶代わりとして作成致しましたのが右になります。

「風従（風したがう）」
 という言葉になります。



寺 讚両
惠 心

発行 〒610-0343
 京 都 府 京 田 辺 市
 大 住 八 河 原 九
 宿 谷 真 治
 電話 0774-62-3137

今年の干支は「寅（とら）」です。

「易経」の一節
 「雲は龍にしたがいがい風は虎にしたがう」という言葉より取りました。

同じ声を持つものは互いに応え、同じ気を持った者は互いに求め合う。龍は雲を従えることで勢いを増し、虎は風を従えることで早さと威厳を増す。

別の者同士であっても、上手くいく者というのは、それぞれ似たもの同士、似たものと一緒にしろうとして、上手くいくものだ。という意味です。

聖徳太子の十七条憲法第二條に、有名な一節「篤く三寶を敬へ」と言う言葉があります。明治時代の高僧 椎尾弁匡というお坊さんは、この「三寶を

念ずる」ということを、誰にでもわかるように

- 一、明るく
- 二、正しく
- 三、和よく（なかよく）

と表現されました。なぜ、明るく、正しく、和よくする必要があるのでしょうか？

それは先にお伝えした通り、「別の者同士であっても、上手くいく者というのは、それぞれ似たもの同士、似たものと一緒にしろうとして、上手くいくものだ」という「易経」の説くところと深く関わってくるのではないのでしょうか。

つまり、三寶を念じる者は「明るく、正しく、和よく」生きていく者と互いに応え求め合い、逆に煩惱（貪り、怒り、愚痴 妄想）にとらわれる者は、同じような境遇のものを求め合ってしまう。ということが、昔からこの人間社会で良く説かれていくということです。

きて、どちらを念じるかは、自分次第です。自分の心ですから自分の意思によって選ぶことが出来ます。

コロナ禍の自粛生活、家の中でも外でも、相手や条件がどうであれ、やはりどちらを念ずるかは自分次第です。

どうしても自分自身で怒りや妄想や愚痴がコントロール出来ないという場合は、「南無阿弥陀仏」と仏の名前を念ずれば、少なくとも「今自分が作る業」というものは良い業に変えていくことが出来ます。

お念仏を唱えてみたいという方は、個別にご相談下さい。コロナ対策をしつつ対応を致します。

皆様が龍となり、虎となり、雲や風を従うかの如く、軽妙な人生を切り開く一年の始まりになりますよう祈念申し上げます。

良い年をお過ごし下さい。